

東名整備による経済波及効果は 50年間で約60兆円 日本経済を下支え

高速道路と社会経済

高速道路のような公共インフラの整備は、社会経済を拡大させる効果があります。例えば高速道路ができることにより生活の質が向上したり、移動時間が短縮したりすることにより社会の生産性を高める効果です。

特に東名のような大都市を結ぶ高速道路による効果は極めて大きく、都市間の交流・物流が活発になり、国全体の生産力が向上し、給料が上がる・高価なものが手に入る・生活が裕福になるといった経済の成長につながっています。この効果は、東名があり続ける限り継続して発現し、日本経済の持続的な成長の支えとなっています。



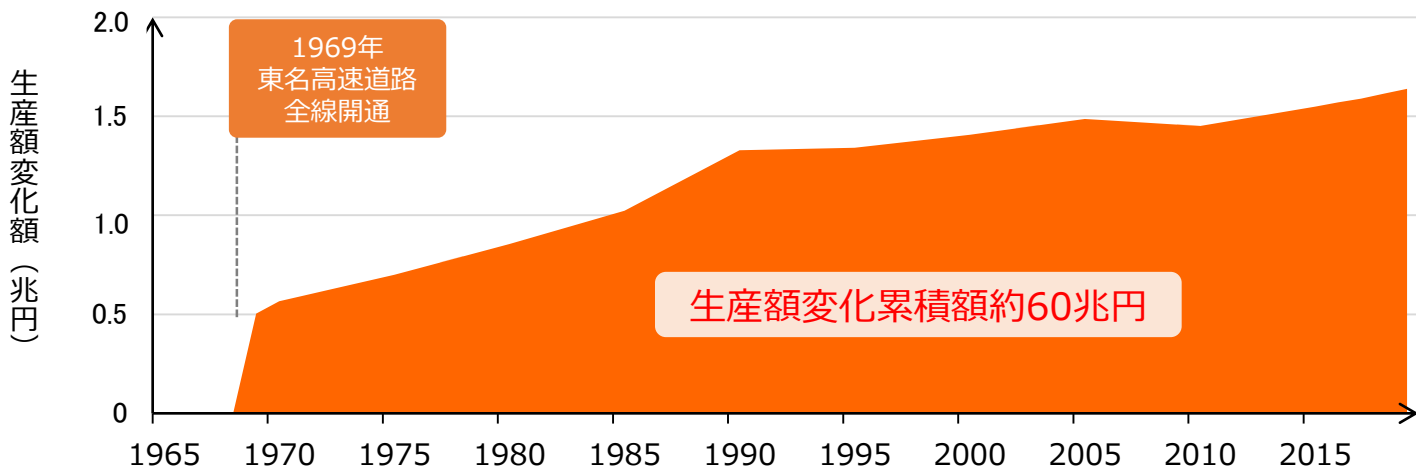
約50年前：新三種の神器

左写真：ルームエアコン（パナソニック）：12.5万円（1958年）→現在の価値で約70万円
中写真：カラーテレビ（パナソニック）：37.0万円（1960年）→現在の価値で約200万円
右写真：自動車（トヨタ カローラ）：52.5万円（1966年）→現在の価値で約200万円

左写真・中写真：写真提供（パナソニック）
（転載不可）

東名整備による経済波及効果

東名が整備されたことによる経済波及効果（生産額変化額）は、1969年の全線開通から50年間で約60兆円にのぼる。（東名が整備されている場合と整備されていない場合との生産額の差により算出）



資料：東名・新東名経済波及効果検討会 公表資料

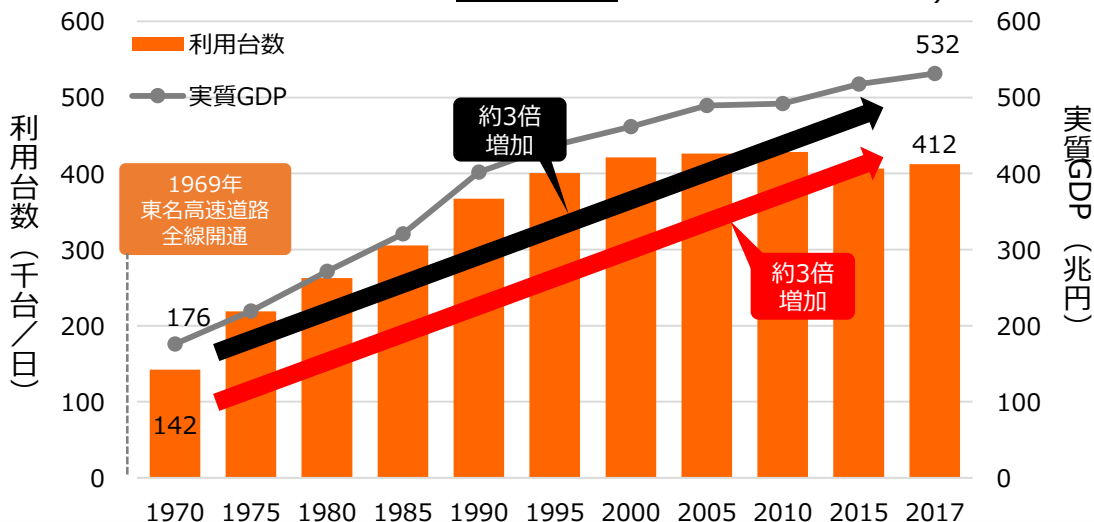
※生産額変化額とは、道路整備による地域間の所要時間の短縮などによる企業の生産性向上や家計での観光消費などの経済活動の関係をモデル化し、道路整備あり・なしの場合の差を算出したもの。

※生産額の計算は、空間的応用一般均衡（Spatial Computable General Equilibrium）モデルと呼ばれる地域間の道路整備が交易を活性化させることで生じるマクロ経済的な効果を計測することを目的に開発されたモデルを使用し算出した。

【参考】全国的高速道路（東名以降）整備による経済波及効果は約720兆円

東名の利用台数と国内総生産の推移

利用台数は2015年には開通時の約3倍に増加、国内総生産（実質GDP）も約3倍に成長。



資料：平成28年度国民経済計算年報（内閣府）、中日本高速道路株式会社調べ



東名高速道路（静岡IC）

資料：NEXCO中日本

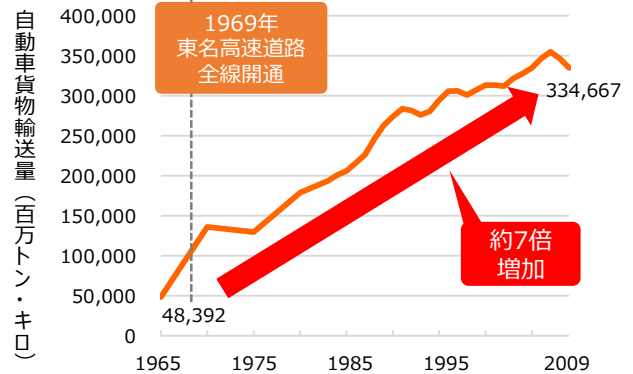
東名・名神が高規格幹線道路を通過する貨物量の約半分を担う 日本の大動脈として物流を支援

高速道路が物流を支え、便利な世の中に

現在では当たり前となっている「インターネット通販」。ITの目覚ましい成長により「欲しいものが自宅で注文でき、すぐに届く」とも便利な社会になっています。これを支えているものに物流と高速道路があります。物流は商品を正確な時間に届けることが重大な使命であり、高速道路はそれを実現するインフラとして機能しています。

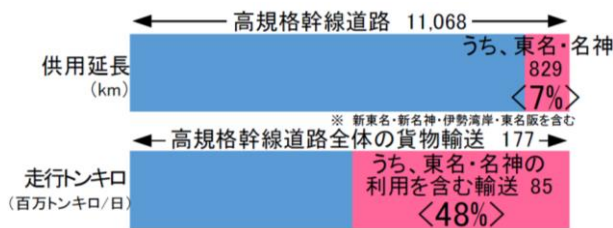
東名の全線開通から50年間で自動車貨物輸送量は約7倍まで増加しました。高速道路の持つ速達性や定時性などの機能が物流を支え、そして便利な世の中を支えているのです。

資料：昭和40年度～平成21年度自動車輸送統計年報



東名・名神軸の貨物輸送の分担率

東名・名神は、高規格幹線道路全体の約7%の延長しかないにも関わらず、高規格幹線道路を通過する貨物量の約半分を担っている
名神とともに、日本の大動脈として物流を支援

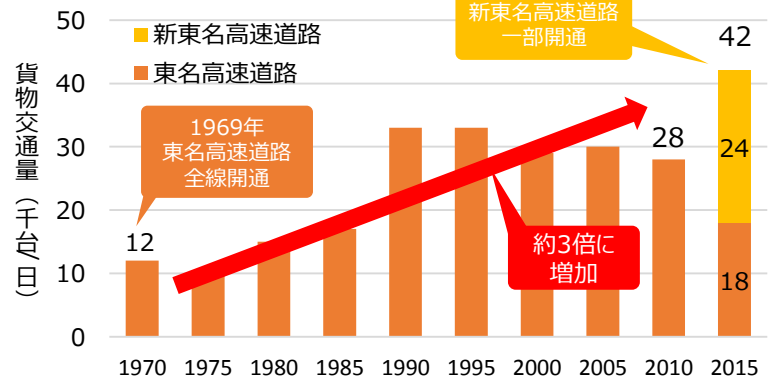


東名・名神の供用延長と輸送分担量

※新東名・新名神・伊勢湾岸・東名阪を含む (2015年度データ)
国土交通省 社会資本整備審議会 道路分科会 第17回事業評価部会資料より抜粋

東名・新東名の貨物交通量の変化

東京～静岡間の東名および新東名の貨物交通量が全線開通当時の約3倍に増加

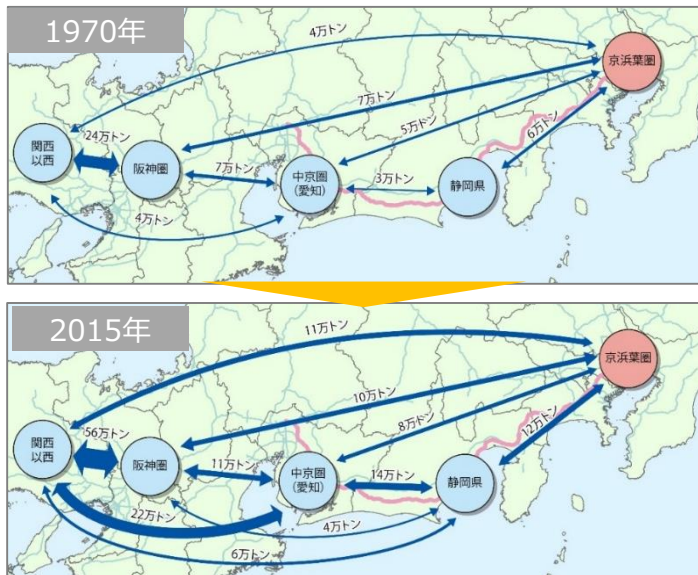


貨物交通量：1970年 小型貨物車+普通貨物車+トレーラー
1975～1985年 大型車+特大車
1990～2015年 中型車+大型車+特大車
対象区間：東京IC～三ヶ日IC

資料：東名高速道路交通量統計報告書 (中日本高速道路株式会社)

京浜葉地域に関連する自動車による地域間貨物輸送量の変化

全線開通当時に比べ、京浜葉圏に関連する貨物輸送が増加し、阪神圏や関西以西への輸送量が2倍以上になっている。



資料：1970年・2015年物流センサス (国土交通省)
※京浜葉圏：東京、神奈川、千葉、埼玉 (一部)
阪神圏：京都、大阪、兵庫、滋賀 (一部)

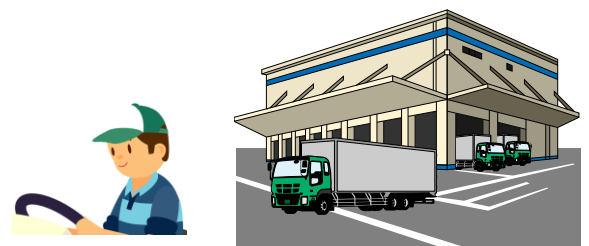
物流関係者の声

○本社のある袋井市にも袋井ICがあり、会社自体の成長するタイミングであったことも重なり、**貨物の取扱量、売上高、従業員数などを増加**する一つの要因になったと思います。

○併せて、**乗務員の運行、労働時間の短縮に好影響**を及ぼしていると考えています。

○また、近年設置されているスマートインターチェンジについても、利便性を感じています。

遠州トラック株式会社

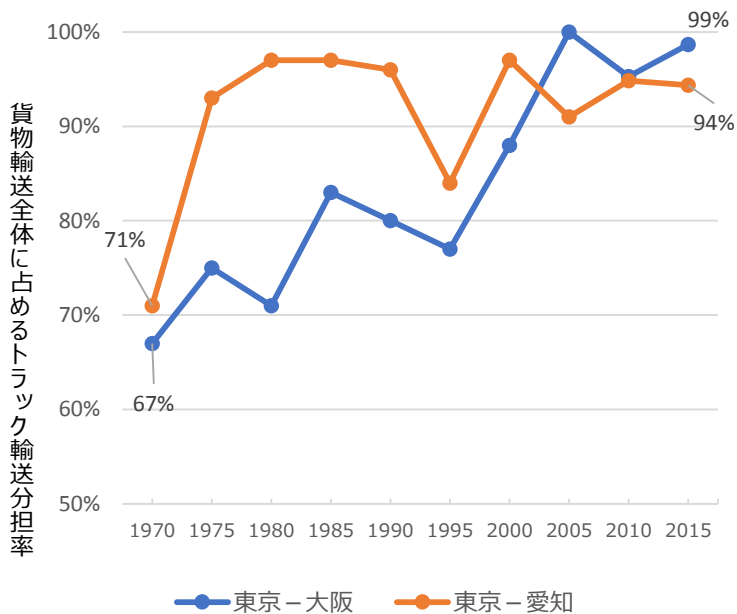


資料：2018年10月ヒアリング調査結果

東京⇄大阪・愛知の貨物輸送がトラック輸送にシフト そのトラック輸送の約7割～8割が東名を利用

県間貨物流動の機関分担

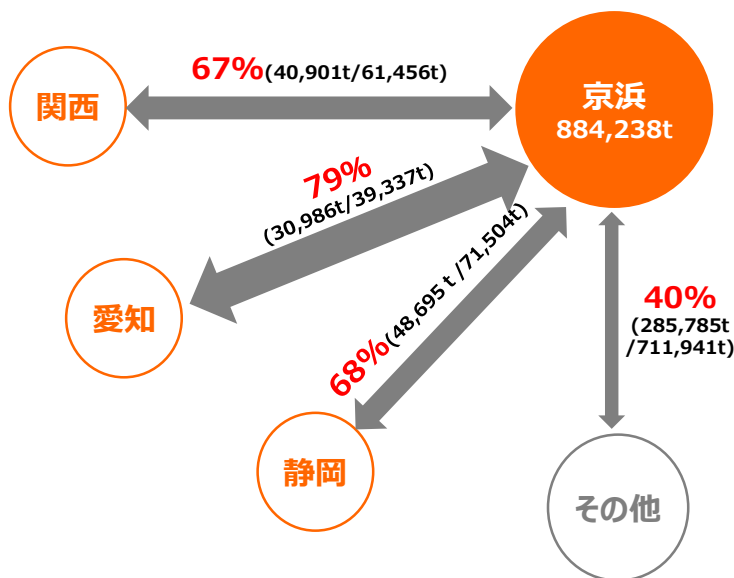
全線開通以降東京⇄大阪・愛知の貨物輸送がトラック輸送にシフトし、現在は**9割以上を占める**。



資料：1970年～2015年物流センサス（国土交通省）
※「代表輸送機関」を用いて集計。
代表輸送機関とは、貨物が出荷されてから届先地に到着するまでに利用された輸送機関のうち、輸送距離が最も長い輸送機関をいう。トラックの他、鉄道、海運、航空がある。

トラック輸送における高速道路利用状況

京浜発着のトラック輸送における高速道路利用の貨物量は、東名沿線の静岡・愛知で**約7割～8割を占める**。

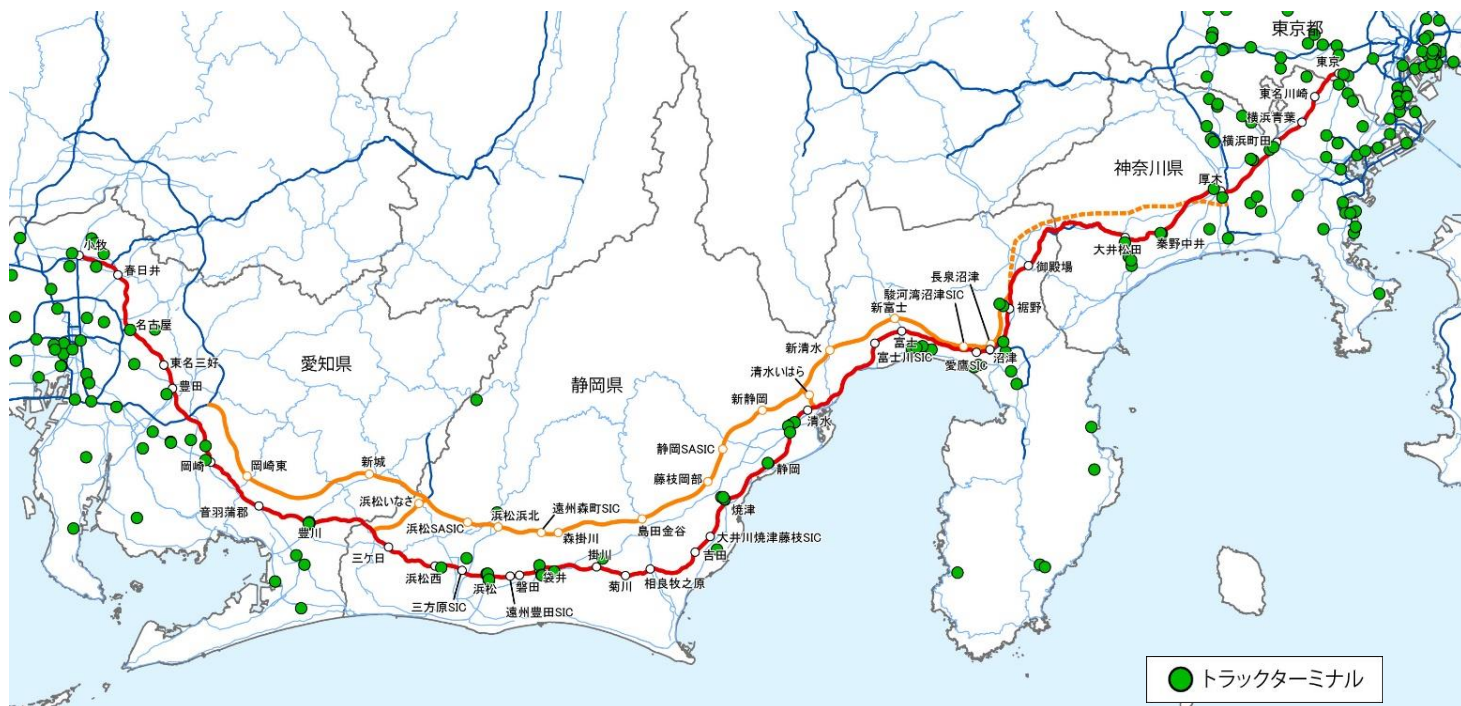


【凡例】
高速道路利用割合 (%) = 高速道路利用貨物量 / 地域間貨物量

資料：2015年物流センサス（国土交通省）
※京浜：東京、神奈川を集計
関西：滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山を集計。

（参考）東名周辺のトラックターミナル立地状況

東名高速道路の周辺には、物流拠点となるトラックターミナルが多数立地している。



出典：国土数値情報 H25物流拠点（国土交通省）

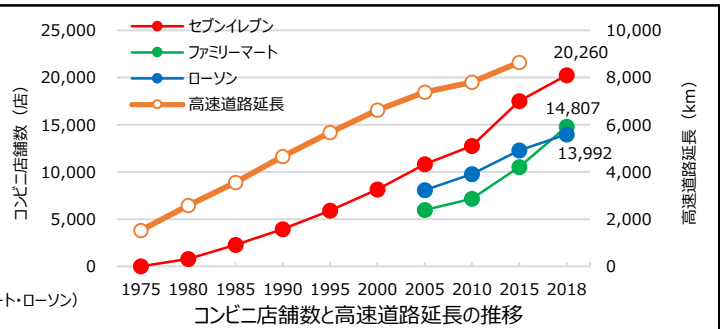
東名の整備により配送網が拡大 沿線の卸売販売額が約8倍～9倍に成長

高速道路整備で商業形態が変化

高速道路の整備により、商業にも大きな変化が生じました。全国に高速道路ネットワークができたことにより配送網が格段に広がり、新鮮な商品や一定の質の商品をどの地域へも運べるようになりました。コンビニエンスストアはまさにそのモデルとなる商業形態で、高速道路の延伸とともに店舗数は増加し続けています。

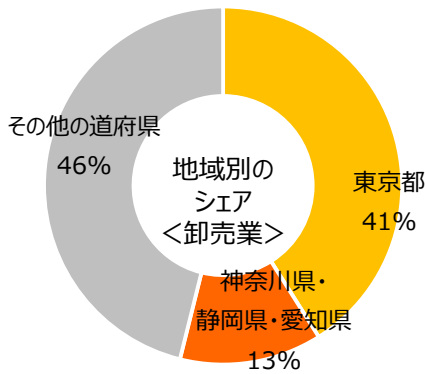
高速道路により沿線地域の商業が変わり、その結果人々の暮らしが便利になり、地域を活性化してきたと言えます。

資料：コンビニ各社HP（セブンイレブン・ファミリーマート・ローソン）
道路統計年報2017（国土交通省）



年間卸売販売額の推移と東名沿線シェア

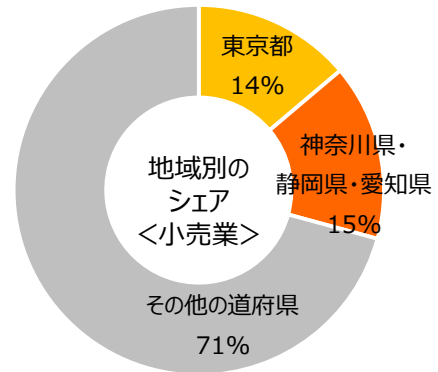
東名沿線の4都県（東京都・神奈川県・静岡県・愛知県）が**5割以上**を占め、伸び率も**その他の道府県を上回り約8～9倍**に成長。



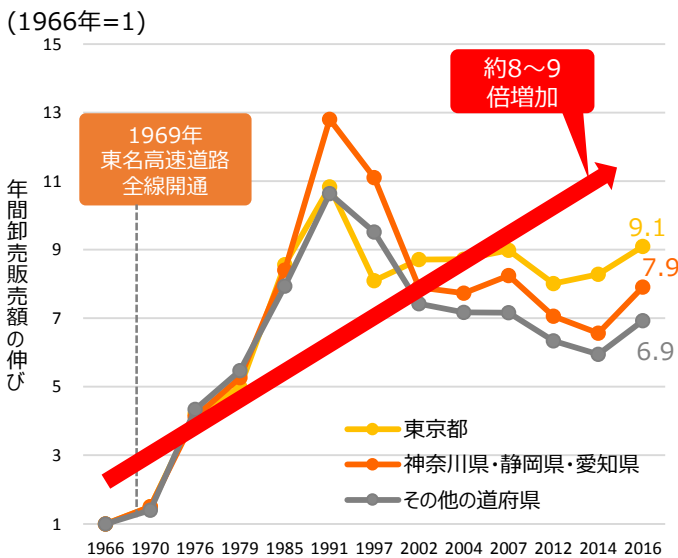
資料：平成28年商業統計表（経済産業省）

年間小売商品販売額の推移と東名沿線シェア

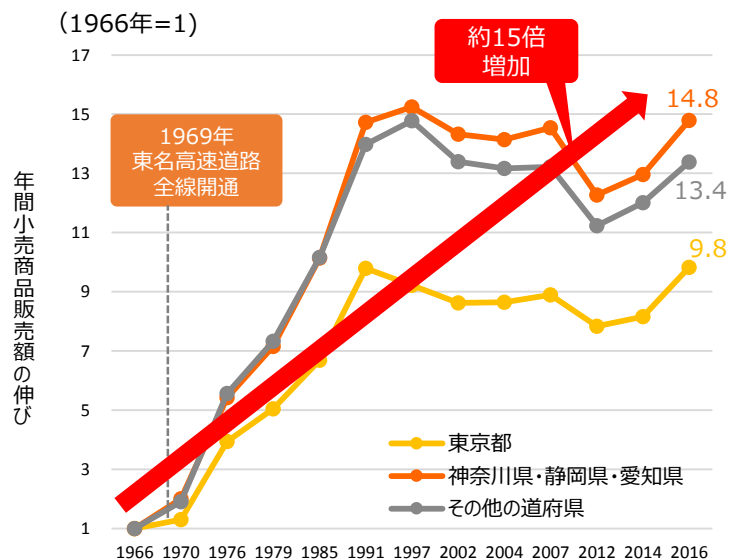
東名沿線の4都県（東京都・神奈川県・静岡県・愛知県）が**約3割**を占め、神奈川県・静岡県・愛知県については伸び率が**その他の道府県を上回り約15倍**に成長。



資料：平成28年商業統計表（経済産業省）



資料：昭和41年～平成28年商業統計表（経済産業省）



資料：昭和41年～平成28年商業統計表（経済産業省）

卸売業者の方の声

静岡県内の卸売業組合の声

- 生鮮品は鮮度が重要で、翌早朝の開市時間に間に合う**輸送体制の確立**に高速道路は欠かせない存在です。高速道路は、出荷時刻（荷をまとめる作業）に幅を持たせることを可能にしています。
- トラックの発展と高速道路網の整備によって、市場外取引も増え、地方都市への発送は可能性がひろがったと言えます。

資料：2018年10月ヒアリング調査結果



沿線の製造品出荷額が約7倍に増加 沿線地域の伸び率が全国を大きく上回る

高速道路と自動車産業の進化

日本初の高速道路である名神高速道路開通時、長距離・高速走行を可能とする車は決して多くはありませんでした。そんな中、トヨタ自動車では、1964年当時新型車として誕生した3代目コロナ（RT40型）のキャンペーンとして名神高速道路 連続10万 km 高速走行を企画し、58日間で完全走破を達成しました。

その後自動車メーカー各社は高速道路整備とともに、高速性能・耐久性を有する自動車を次々と販売し、モータリゼーションの一時代を築いてきました。

今や自動車産業は我が国の製造業人口の約半数を占める巨大産業となっています。高速道路の整備が自動車産業・製造業の発展に寄与してきたことは言うまでもありません。

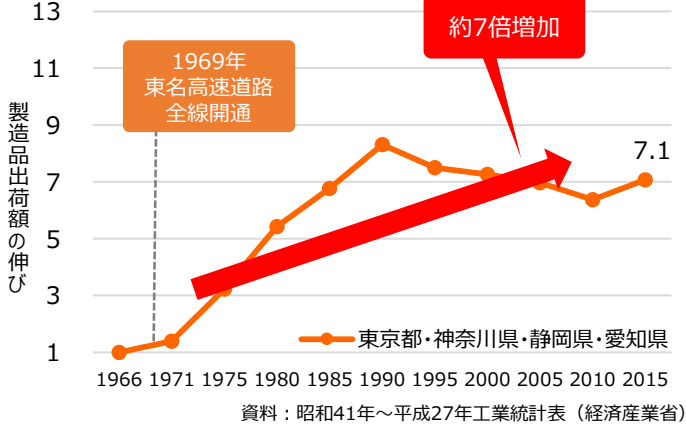


1964年 新型コロナ（RT40型）
名神10万 km連続高速走行
写真提供：トヨタ自動車株式会社（転載不可）

東京・神奈川・静岡・愛知の製造品出荷額の推移

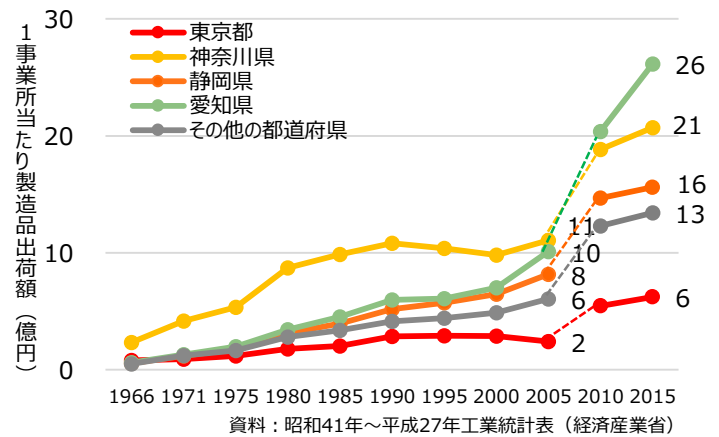
東名沿線（東京都・神奈川県・静岡県・愛知県）は全線開通時点と比較し、**約7倍**に増加

(1966年=1)



1事業所当たり製造品出荷額の推移

東名沿線（神奈川県・静岡県・愛知県）の製造品出荷額は全国に比べ伸び率が高い。

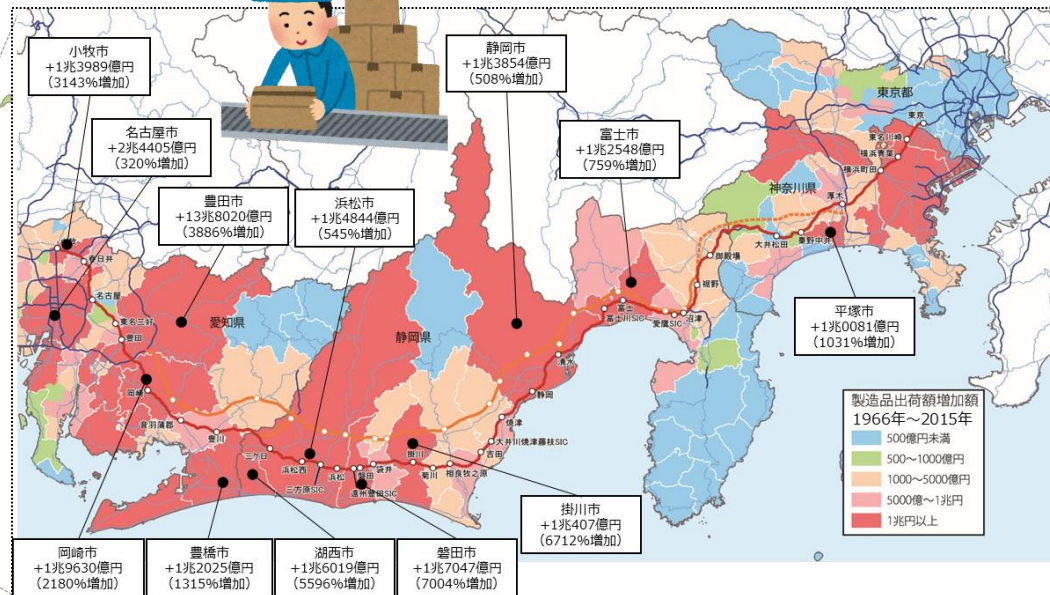


※2010年調査より、調査対象の事業所が「従業員数4人以上」となったため、全ての事業所を対象としていた2005年以前とは経年比較ができない。

市町村別の製造品出荷額の増加率

東名高速道路沿線では、開通前に比べ、出荷額が1兆円以上増加している市町が多く見られる。

2015年



資料：昭和41年・平成27年工業統計表（経済産業省）

高速バスの運行便数が大幅に増加 市外への通勤圏の拡大が見られ生活の利便性が向上

高速道路整備により人の移動が便利に

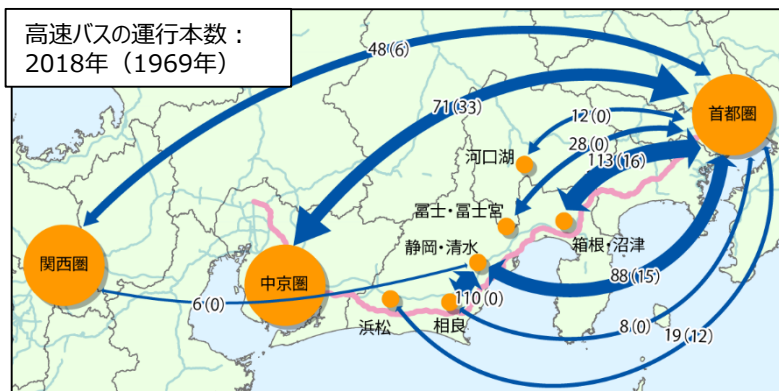
1964年1月に名神高速道路でスタートした高速バスは、高速性と快適性から高く評価され、東名の全線開通時に東京-名古屋-京都-大阪便という長距離路線が登場しました。それから50年、今でもその利便性や経済性から人気は衰えず、東京ディズニーリゾートをはじめとするレジャー施設へのアクセス路線や、地域間を移動する路線など様々な形で利用されています。東名ができたことにより、人の移動がより快適になり、生活が便利になっていったことがわかります。



1964年高速バス運行開始
資料：NEXCO中日本

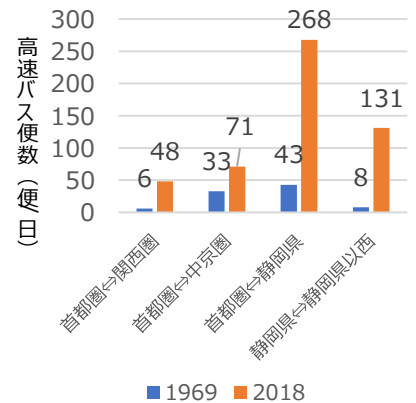
高速バスネットワーク（東名バス停に停車する系統）

東名高速道路を利用した高速バスは、多数の路線が運行されており、地域間の交流を支えている。



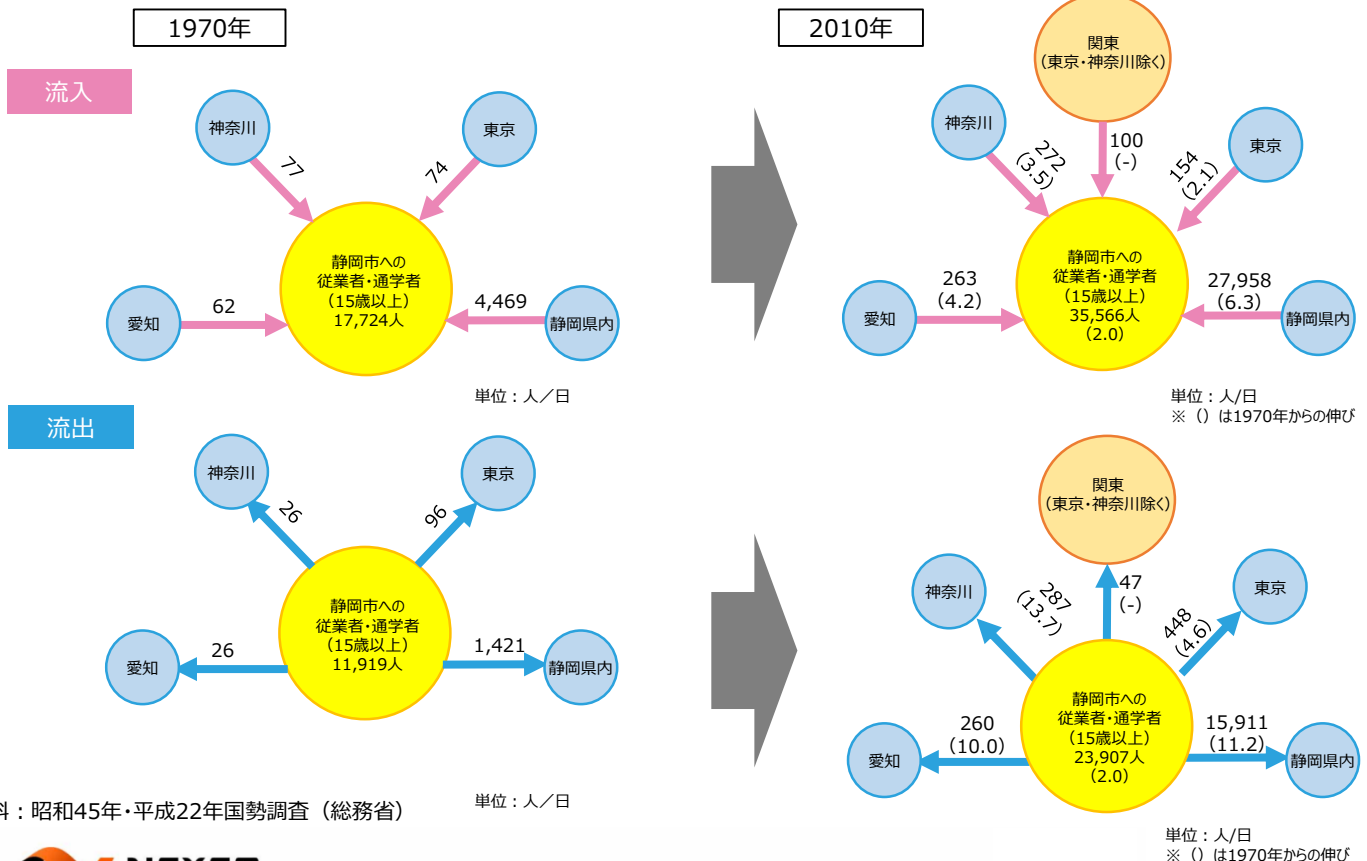
資料：国鉄監修 交通公社の時刻表1969年6月号（日本交通公社）〔国鉄東名ハイウェイバスを集計〕
高速バス時刻表2018夏・秋号（交通新聞社）
〔「東名版エリア」に掲載されている路線のうち、東名の停留所またはSA/PAを利用している路線を集計〕

高速バス運行便数の推移 開通当時から大幅に増便



静岡市⇄市外の就業者・通学者数の変化（自動車利用）

自動車を利用した静岡市外への通勤・通学者数が大幅に増加。



【参考】東名高速道路の概要

整備概要

- 路線名 第一東海自動車道
- 起終点 自) 東京都世田谷区 至) 愛知県小牧市
- 通過市町村 1都33市9町
- 設計速度 80km/h ~ 120km/h
- 全体事業費 約3,400億円 (東名高速全通時)
- 1日あたりのご利用台数 約41万台/日 (2017年度)

全体路線図



【参考】東名高速道路の概要



東名高速道路の歴史 ～開通するまで～

西暦	高速道路のできごと	世の中のできごと
1940年	東京～下関間の予備調査開始。 昭和19年戦況の悪化により中断	日独伊三国同盟成立
1951年	東京・神戸間高速自動車国道の 比較線調査および経済調査	第1回NHK紅白歌合戦放送 日本航空設立 (東京-大阪-福岡間営業開始)
1952年	新道路法制定、道路整備特別措置法制定	東京青山に日本初のボウリング場が開場
1956年	ワトキンス調査団来日 日本道路公団発足	日本の国連加盟承認
1957年	国土開発縦貫自動車道建設法、高速自動車国道法 公布・施行	初の5千円札（聖徳太子肖像）発行
1958年	名神高速道路起工式	東京～大阪間で新幹線こだま号運行開始 東京タワー完成（333m）
1960年	東海道幹線自動車国道建設法公布	カラーテレビ放送開始 ローマ五輪開催
1962年	東海道幹線自動車道 東京・静岡線、豊川・小牧線 施行命令	東京都が世界初の1千万人都市に
1963年	名神高速道路 栗東～尼崎間71km開通	新千円札（伊藤博文肖像）発行
	東海道幹線自動車道 東京・小牧線全線施行命令	
	第3次世界銀行借款調印（東京～静岡間7,500万米ドル、以降1996 年の6次まで計3億米ドルを借款）	
1965年	東名高速道路起工式	3C時代（車・カラーテレビ・クーラー） 日本サッカーリーグ開幕
1968年	東京～厚木間35km、富士～静岡間40km、岡崎～小牧間53km 開通	日本のG N P、アメリカについて第2位に
1969年	静岡～岡崎間132km、厚木～大井松田間23km、御殿場～富士間 38km、大井松田～御殿場間26kmが順次開通し全線開通	テレビアニメ「サザエさん」放送開始



第二次世界大戦後の日本の道路状況



東名全線開通時 開通式

【参考】東名高速道路の概要



東名高速道路の歴史 ～開通後～

西暦	高速道路のできごと	世の中のできごと
1971年	首都高3号渋谷線出入口～用賀出入口間開通により、首都高速道路と接続	アポロ14号月に着陸 沖縄返還協定の調印式挙行
1972年	小牧JCT開通により、中央道と接続（愛知県小牧市）	札幌五輪開催 日本の鉄道開業100年
1974年	浜松西IC開通（静岡県浜松市）	プロ野球 長嶋茂雄氏 現役引退
1977年	足柄SA（上り）に高速道路初の宿泊施設「レストイン足柄」オープン	平均寿命世界一（男性72.69歳、女性77.95歳） プロ野球 王貞治氏 ホームラン世界記録756号を達成
1979年	日本坂トンネル火災事故発生（静岡県静岡市・焼津市）	第2次石油ショック
1981年	秦野中井IC開通（神奈川県秦野市）	スペースシャトル「コロンビア」が打ち上げ成功
1986年	音羽蒲郡IC開通（愛知県豊川市）	英チャールズ皇太子とダイアナ妃が来日
1988年	裾野IC開通（静岡県裾野市）	世界最長の青函トンネル（58.85km）開通
1991年	大井松田IC～御殿場IC間に新たな上り線開通。旧上り線を閉鎖し、下り線右ルートへの改築完了	流行語「…じゃあ～りませんか」
1995年	厚木IC～大井松田IC間の6車線化完了	阪神・淡路大震災
1997年	横浜ICを「横浜町田IC」に名称変更	消費税率を5%に引き上げ 東京湾アクアライン開通
1998年	横浜青葉IC開通（神奈川県横浜市青葉区） 日本坂トンネル新下り線（3車線）供用開始	長野五輪開催
1999年	磐田IC開通（静岡県磐田市）	携帯電話・PHSの電話番号11ケタ化
2001年	小牧ICで名古屋高速11号小牧線と接続	アメリカ同時多発テロ

清水インターチェンジ周辺の昔と今

1969年

2018年



【参考】東名高速道路の概要



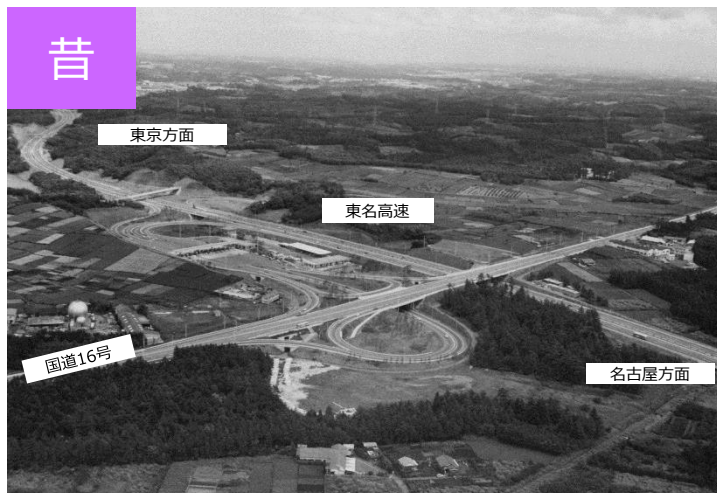
東名高速道路の歴史 ～開通後～

西暦	高速道路のできごと	世の中のできごと
2003年	豊田JCT開通（愛知県豊田市）により、伊勢湾岸自動車道と接続 名神・中国道とともにアジアハイウェイ1号線に編入	郵政事業庁が日本郵政公社へ オレオレ詐欺が横行
2004年	日進JCT開通（愛知県日進市）により、名古屋瀬戸道路と接続 豊田JCTが完成し、伊勢湾岸自動車道（四日市方面）と接続	新潟中越地震
2007年	富士川スマートIC（静岡県富士市）、遠州豊田スマートIC（静岡県磐田市）供用開始 豊橋本線料金所廃止	第1回東京マラソン開催
2009年	駿河湾地震により牧之原SA付近の上り線の一部が崩落 沼津IC改良し、伊豆縦貫自動車道と接続	鹿児島市の桜島が爆発的噴火 裁判員制度による初の裁判が始まる
2010年	海老名JCT開通（神奈川県海老名市）により、圏央道と接続	サッカーワールドカップ南アフリカ大会日本代表ベスト16
2011年	上り線 音羽蒲郡IC～豊田JCT、下り線 美合PA～豊田JCT間をそれぞれ暫定3車線化	東日本大震災 サッカー日本女子代表がW杯初優勝
2012年	新東名高速道路（御殿場JCT～浜松いなさJCT間）開通 清水連絡路・引佐連絡路で接続	格安航空会社が初就航
2014年	上り線 海老名JCT～海老名SA間で付加車線延伸	御嶽山が7年ぶりに噴火
2016年	大井川焼津藤枝スマートIC供用開始（静岡県焼津市） 愛鷹スマートIC供用開始（静岡県沼津市） 新東名高速道路（浜松いなさJCT～豊田東JCT間）開通 上り線 音羽蒲郡IC～豊田JCT間、下り線 美合PA～豊田JCT間を暫定3車線から2車線へ	熊本地震発生
2017年	三方原スマートIC供用開始（静岡県浜松市）	プレミアムフライデー実施
2018年	守山スマートIC供用開始（愛知県名古屋方面）	平昌オリンピック 日本は冬季最多の13メダル

横浜町田インターチェンジ周辺の昔と今

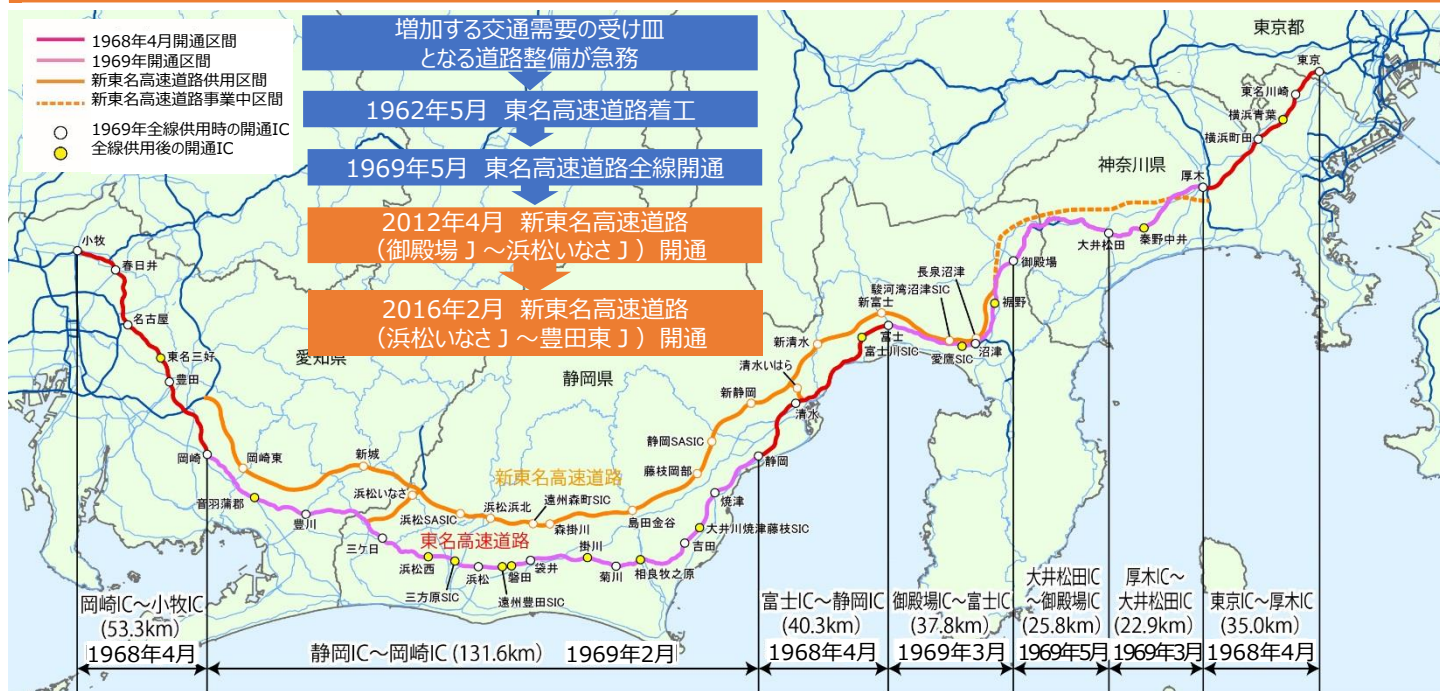
1969年

2018年



【参考】東名高速道路の開通経緯

東名高速道路の整備経緯



新東名高速道路について

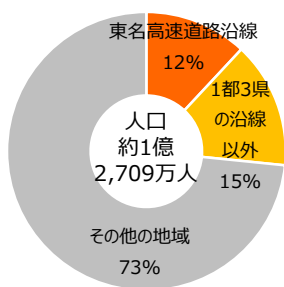
新東名は世界をリードする高速道路プロジェクトとして「新たな国土の大動脈」の役割を担い、①東名の慢性的な飽和状態の解消による抜本的なサービス改善、②ダブルネットワークの形成による災害時などのリダンダンシーの確保などが期待され、整備されました。静岡県区間、愛知県区間の開通によりその効果は十分に発揮されていることが確認されています。また、自動運転・トラック隊列走行・ダブル連結トラックなど、次世代の物流システムを支える高速道路として期待されています。現在、神奈川県及び静岡県の一部区間に残りの区間の建設工事を実施しております。

東名高速道路沿線地域がわが国に占める割合

東名高速道路沿線の1都3県は、全国の27%の人口に対し、**約30～50%**の経済活動が営まれている。

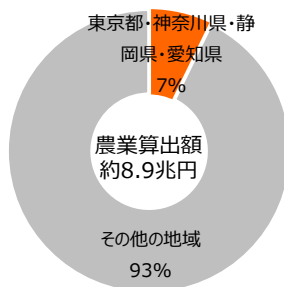
【人口】

約3,382万人 / 約1億2,709万人



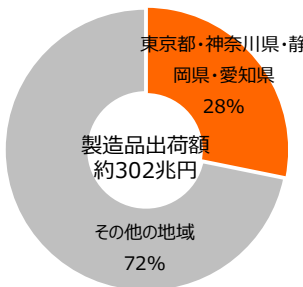
【農業算出額】

約0.6兆円 / 約8.9兆円



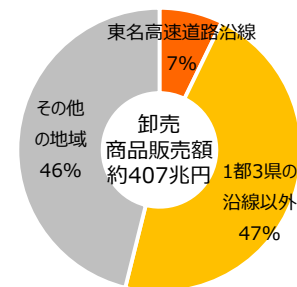
【製造品出荷額】

約85兆円 / 約302兆円



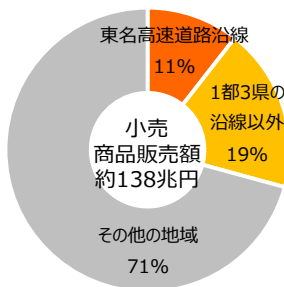
【卸売商品販売額】

約219兆円 / 約407兆円



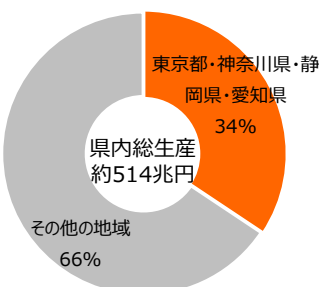
【小売商品販売額】

約40兆円 / 約138兆円



【県内総生産】

約177兆円 / 約514兆円



【一人当たりの県民所得（平均）】

1都3県 / 全国 = 3,547千円 / 3,043千円

【東名高速道路沿線】

東名高速道路のIC5km圏の自治体および東名高速道路が通過する自治体
【1都3県】東京都、神奈川県、静岡県、愛知県

資料：人口：平成27年国勢調査（総務省）
農業算出額：平成27年生産農業所得統計確報（農林水産省）
製造品出荷額：2017年工業統計表（経済産業省）
卸売商品販売額・小売商品販売額：平成28年商業統計表（経済産業省）
県内総生産・県民所得：2014年度国民経済計算年報（内閣府）